

第3回神戸市外郭団体の経営評価に関する委員会議事要旨

1. 日 時 : 平成 27 年 12 月 21 日(月) 13:05~16:30
2. 場 所 : 1号館 14階 1141 会議室

3. 要旨

- ・神戸市外郭団体の経営評価に関する委員会規則第8条に基づき、財務状況等のヒアリング（くつのみちながた神戸、神戸市水道サービス公社）に関して、会議の非公開が確認された。
- ・議題（2）と議題（3）に関して、会議の公開が確認された。
- ・委員長より議事に入る旨の発言があり、事務局から会議資料の説明を行った。
- ・会議における委員の主な発言は以下のとおりであった。

（ヒアリングに関しては会議非公開のため議事省略）

（意見交換）

【前回の補足説明について】資料2

- ・事務局より、前回、財政状況を確認してからヒアリング対象団体とするか決定することになっていた4団体と、ヒアリングが決定していた社会福祉協議会について、各委員へ報告した内容の説明を行った。

○資料2-1だが、（一財）神戸在宅ケア研究所に関する平成24年度から平成26年度の黒字減少理由は、病院の保全工事に伴う患者の受け入れ制限が主となっている。委員の意見としては、介護にせよ病院にせよ、報酬改定というリスク要因を抱えており、在宅介護事業が病院事業の黒字によって支えられているといった形となっているため、今後の方向も含めて、採算性に関してチェックしていく必要があるのではないかとのことだった。

○神戸市道路公社に関しては、平成24年に新神戸トンネル有料道路を移管した際に市補助金（215億）及び損失補てん用積立金の取り崩し（102億）を営業外収益に計上したため、平成24年度の収益が膨らんでいた。それを除く経常収支の異動は年度によってばらつきがあり、その主たる原因は資料2-2にあるように設備更新費が年度により異なるためである。

また、前回提出資料（様式1-5）は、本来費用計上すべき「償還準備金繰入額」を計上していなかったため多額の利益が出ているように見えていた。資料2-3は「償還準備金繰入額」を計上し直し、前回提出資料を修正したものである。資料2-3を確認すると当期純利益は増加傾向にあるため、ヒアリングの必要はないとのことだった。

○神戸空港ターミナル（株）に関して、資料2-4を確認すると、純利益は毎年度増減があり一定の傾向にない。その中で、平成22年度のJAL撤退、平成26年度のスカイマーク再生に関わる収入減少であったりと一時的な収益の減少があった。収益の基本となる旅客数に関して多少の増減はあるものの、比較的安定推移しており、加えて、航空便の欠航による減収が平成28年度には改善する見込みであり、経営状況は好転する見込みとなっている。また、航空会社の誘致に関しては市役所が主体的に行っていることもあり、総合的に勘案して、ヒアリングの必要はないとのことだった。

○（公財）神戸市スポーツ教育協会に関して、資料2-5を確認すると、平成24年に神戸レディースフットボールセンターの建設があり、指定正味財産として各種助成金・寄附金を一時的に受け入れ、取り崩しながら事業を実施している。一般正味財産については、収益事業で得た利益を公

益事業で費やすとの公益法人の基本的な考え方に基づいて運営しており、黒字が減少しているが、平成24年度に得た黒字を消費しているものでありヒアリングの必要はないとのことだった。

- (社福)神戸市社会福祉協議会に関して、資料2-6を確認すると、主な赤字理由は基金事業によるものである。基金事業は主に寄附金を原資として、指定正味財産を取崩しながら事業を実施しているため、帳簿上は赤字といった形式になっている。また、基金事業は経常的な事業と切り離されており、仮に寄附金等が途絶えて基金がなくなった場合には事業を実施しないため、経常収支に影響を与えることは無い。外郭団体の運営に支障が出るような赤字の理由ではなかったため、ヒアリングの必要はないとのことだった。

【ミッションに関するヒアリング対象の決定】資料3、4

- ヒアリングを行う対象については、前回でも議論となっていたが、同じような機能を持つ福祉関係の外郭団体について、役割分担を伺いたい。各外郭団体に聞くだけではなく、所管局がどう考えているのかを聞いてみたい。
- 今日のヒアリングを行って感じたことだが、所管局と外郭団体は別々での実施の方がよいかと感じた。
- (一財)神戸在宅ケア研究所に関して財務状況のヒアリングとミッション関係のヒアリングを併せて行ったうえで、(公財)こうべ市民福祉振興協会と(一財)神戸在宅ケア研究所と(社福)神戸市社会福祉協議会の役割分担を所管局に伺う。特に議論が難しいと思うのは、この3団体の法人形態が違うことであるが、法人形態の違いも含めて話をするに本委員会としての役割があると考えます。
- その他は、(一社)神戸港振興協会と(一財)神戸国際観光コンベンション協会だが、観光といった切り口を考えると、類似した機能を持っており、どういった役割分担をとっているのかヒアリングを実施したい。資料4を読むと(一社)神戸港振興協会が海の周りを中心とした観光を担っているようだが、2つの外郭団体の所管局が違うといったことから整理が難しいのか、一度ヒアリングしてみたい。
- この2つの外郭団体の法人形態は、神戸港振興協会は一般社団法人、神戸国際観光コンベンション協会は一般財団法人となっており、両団体の法人形態は違う。
- 昨年度、(一財)神戸国際観光コンベンション協会はヒアリングを実施している。直接話を聞いたら(一社)神戸港振興協会にヒアリングを実施して、後半に所管2部局の合同ヒアリングを行い、お互いの役割分担について話を聞くことができる。
- 前回の委員会では他にミッションが類似しているといった外郭団体について議論がなかったか。インキュベーションで類似した機能を持っている外郭団体があるといったことは前回議論していたが、他にも似たような機能を持っている外郭団体が見られた。
- ファッションの切り口で似たような事業を行っている外郭団体があった。本日ヒアリングをしたくつのみちながた神戸(株)についても、靴をファッションといった切り口で捉えることができる。神戸に住んでいる人は神戸の街がファッションを売りにしていることを知っているが、おそらく北海道の人は知らない。また、靴だけに特化していいのか、ファッションを神戸市の外向けにどういった打ち出しをしていくのか、ヒアリングを実施したい。
- (公財)神戸市産業振興財団と(株)神戸商工貿易センターがファッションの切り口でヒアリング対象になりうる。この2団体は昨年度もヒアリングを実施していなかった。

【決定事項】

- ヒアリングの対象とする優先順位については、財務状況等のヒアリングとミッション関係のヒアリングを合わせて実施する（一財）神戸在宅ケア研究所と、外郭団体間の役割分担をヒアリングする保健福祉関係が優先順位が高い。その次に 2020 ビジョンに関連しているため、ヒアリングを行う意味が大きいと思われる観光分野として、先ほど述べた（一社）神戸港振興協会と（一財）神戸国際観光コンベンション協会の役割分担、また、インキュベーションやファッションという切り口で類似している機能を持った（公財）神戸市産業振興財団、（株）神戸商工貿易センター、くつのまちながた神戸（株）の3団体が該当する。後は、市との役割分担が不明確となっている団体として、（公財）神戸都市問題研究所と（公財）神戸国際協力交流センターが該当する。
- 本委員会の外郭団体と所管部局に対するヒアリングについては、個別団体の競争上の利益の問題があるので、委員会規則8条により、委員の議決が行われ非公開となった。